

放課後子ども教室「西条ゆめチャレンジ」【西条市】

～子どもたちにたくさんの豊かな体験を～

◆活動の目的・理念

- 地域の子どもの居場所づくり。
- 家庭、学校、地域と連携・協働し、子どもの健全な育成を図る。
- 地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを目指す。

| | | | | | | | | |
|-----------------|--------------------|--|---------------|-------------------|------|----------------|--|--|
| 活動場所 | 西条公民館 西条小学校体育館他 | | 対象学校区名 | 西条小学校 | | 子どもの平均 参加人数 | 25 人/日 | |
| 開催日数 曜日・時間 | 平日(授業日) | 17 日 | 水 | 14 : 45 ~ 16 : 00 | | 児童クラブ との連携 | 連携型 西条小学校放課後児童クラブ | |
| | 土・日・休業日等 | 29 日 | 土、日、夏季休業中の月～金 | 9 : 30 ~ 11 : 30 | | | | |
| 活動のべ日数 | 46 日 | 0 日 | 8 日 | 14 日 | 20 日 | 0 日 | 4 日 | |
| 協働活動支援員のべ 人数 | 38 人 | 0 人 | 5 人 | 6 人 | 23 人 | 0 人 | 4 人 | |
| 協働活動サポーターのべ人数 | 132 人 | 自治会、老人クラブ、公民館活動 サークル他地域住民、スポーツ推進 員 | | ボランティア のべ人数 | | 50 人 | 西条市職員・地域住 民・老人クラブ等 | |
| 参加者募集 | 小学校を通じてチラシを配布 | | 参加費用 | 1回700円まで | | 連携・協力 機関・団体 | 西条公民館、西条小学校、西条小PTA、 放課後児童クラブ、青少年健全育成協議 会 | |

取組の概要

<主な取組内容>

● 伝統文化に触れ、親しもう

生け花、昔遊び、けん玉などの日本の伝統文化に触れ、良さを体感し、親しむ。

● 創作活動を体験しよう

押花、ポーセラーツ、手芸、フラワーアレンジメントといった創作活動を体験する。

● 様々な人と出会い、つながろう

遊びやスポーツ、創作活動や体験等を通して異学年や異世代、地域住民、更には地域を越えた様々な人と出会い、交流を深める。

● 身体を動かし、スポーツに親しもう

バドミントン、軽スポーツを通して健全な心と体を育てる。

● 本物を知ろう

幅広い地域住民や団体等の協力を得て、子どもたちがわくわくする本物の体験をする。

児童の感想

- ・難しいところがあったり困ったことがあったりしても、先生が優しく教えてくれるので、うまくできてうれしかったです。
- ・いろいろな学年の人と交流できて、友だちが増えました。先生と話すのも楽しかったです。

| | 時間帯 | 活動内容 |
|----|-------------|--------------------|
| 水 | 14:45～16:00 | 昔遊び、生け花、ポーセラーツ、押し花 |
| 土 | 9:00～11:30 | わくわく教室 |
| 土 | 9:30～11:30 | 軽スポーツ |
| 土 | 13:30～16:00 | 手芸 |
| 土 | 14:00～15:30 | フラワーアレンジメント |
| 日 | 9:00～11:00 | バドミントン |
| 夏季 | 9:30～11:30 | 読み聞かせ |
| 夏季 | 10:00～11:30 | けん玉 |
| 夏季 | 13:30～15:30 | ゆめチャレ交流教室 |



(ゆめチャレ交流教室
(軽スポーツ))

<特色ある取組>

● 館外活動

今年度「西条わくわく教室」では市のバスで初めて市外に出て、朝倉ふるさと古墳美術館や野々瀬古墳群、バリクリーンに行きました。古墳の中にも入り見学することで、自分の目で見て学ぶことができました。

● 企業のサポート

2つの企業の協力を得て、児童クラブの児童を対象に「ぬり絵」、西条わくわく教室では、バリクリーンの見学にも行かせていただき、ゴミの処理の仕方や使用している機械など、間近で見ることができました。



(西条わくわく教室
(バリクリーン見学))

事業を実施して

【成果】

- 自分で準備物や日程を確認でき、自己管理のきっかけになっている。
- 例年男子児童の参加が少ないことには変わりはないが、今年度はどの教室にも男子児童がおり、児童同士の交流の幅が増えた。

【課題】

- ゆめチャレ交流教室など、高学年の参加が少なくなるので、高学年でも参加したいと思えるようなものを考えなければいけない。
- 落ち着いて作業がしにくい子などへの、声掛け等対応を考えなければならない。